



変革の現場へ

草の根から発信

記者募集

タブーなく真実を報道する「しんぶん赤旗」

赤旗記者への応募を歓迎します

青年・学生党员のみなさん、「しんぶん赤旗」は2018年2月1日、創刊90周年を迎え、日々、新たな歴史を紙面に刻み続けています。作家の赤川次郎さんからは次のようなメッセージが寄せられました。「『赤旗』創刊90周年おめでとうございます。それもただの『90年』ではない、嵐と怒涛の年月の90年です」「それを生き抜いて今、21世紀になお存在感を増しているのは立派なことだと敬意を表します」。

90年余の歩みを続けてきた「しんぶん赤旗」には、三つの魅力があります。

——タブーなく真実を伝える新聞です。政財界の癒着、日米安保の闇、ブラック企業に迫ります。「スクープ連発！」と他のメディアも注目。2014年、18年には日本ジャーナリスト会議（JCJ）がすぐれたジャーナリズム活動を表彰するJCJ賞を受賞しました。

——市民と野党の共闘の前進になくてはならない新聞です。俳優の仲代達矢さんは「近年の『野党と市民との共闘』の下地をつくったのは、『赤旗』紙上での幅広い人びとの交流ではなかったでしょうか」と評価しています。

——多彩な関心にこたえ、暮らしに役立つ新聞です。政治、社会、経済、国際などのニュースはもとより、科学、文化、くらし、スポーツ、芸能、テレビ・ラジオ、囲碁・将棋、つり、行楽などの情報が満載。国民・市民運動、党活動など他紙にないページもあります。

2018年7月からは電子版がスタートし、若いみなさんからも歓迎されています。

日本共産党はいま、大破たんした安倍政治を終わらせ、希望ある新しい政治をつくるために全国各地で奮闘しています。このたたかいの旗印、連帯の絆となるのが「しんぶん赤旗」です。このかけがえのない「しんぶん赤旗」の製作に私たちとともに取り組みませんか。あなたの挑戦を心から歓迎します。

取材網 地域から、世界から発信

赤旗編集局は、あかつき印刷㈱のA Sビル（地上8階、地下4階）4～8階にあります。

編集委員会のもとに編集センターと22の部があります。地方の取材網は北海道から九州・沖縄までをカバーする五つの総局と四つの支局があり、都道府県に専任通信員が配置されています。また、地方議員や党機関の役員、支部の通信員から記事や情報が送られてきます。

海外の取材網は、北京、ハノイ、カイロ、ベルリン、ワシントンDCの5都市に支局を置き、それぞれ特派員が活動しています。大きな事件やニュース、重要な国際会議があれば、海外支局や東京の編集局から記者が飛びます。



線路を挟んで左が党本部ビル。右がA Sビル

パソコンで記事作成、紙面編集

紙面編集は、すべてコンピューターシステムでおこなわれています。記者の記事作成から記事・写真の送稿、整理記者のレイアウトまですべてパソコンでの作業です。

記者募集は春と秋の年2回

赤旗記者の募集は春と秋の年2回おこなっています。その都度「しんぶん赤旗」や日本共産党ホームページ、「民青新聞」で要項をお知らせしています。

資格は日本共産党員であること。党歴、1年以上（着任までに）、学歴は問いません。青年党員の応募を歓迎します。

書類審査の後、政治・経済、社会、国語、日本共産党について、論文の5科目の筆記試験（他に選択科目として英語があります。希望者のみ）、面接・健康診断があります。筆記試験は、いずれも赤旗記者になるにあたって基本的なことを身につけているかどうかをみるためのものです。綱領と大会決定、中央委員会総会決定を学習し、「しんぶん赤旗」をきちんと読んで挑戦してください。

地方から赴任する独身者は入局後1年程度、寮に入れます。条件に応じて地方勤務や海外勤務があります。

記者募集についての問い合わせは、赤旗編集局総務部 03（3403）6111（代表）までお願いします。

編集委員会

編集センター

政治部

社会部

経済部

国民運動部

外信部

論説委員会

特報チーム

スポーツ部

地方部

党活動部

学術・文化部

くらし家庭部

テレビ・ラジオ部

囲碁・将棋・行楽部

写真部

読者室

校閲部

整理部

工程管理・開発部

総務部

広告部

日曜版編集部

■編集局の機構■

海外支局

地方総局・支局

各都道府県に専任通信員・通信員



■記者は語る■

遺族が流した涙 忘れない

日曜版編集部 本吉 真希（2002 年入局）

私は主に日本の侵略戦争の実態と教育の問題を取材しています。記者活動の転機となったのは、社会部で経験した 2005 年の「戦後 60 年企画」です。この年、自民党は憲法改悪の草案づくりに本腰を入れ、小泉純一郎首相の靖国神社参拝は国内外で大きな問題となっていました。日本が再び「戦争できる国」へ進もうとするなか、戦場の実態を示したのがシリーズ「元日本兵が語る『大東亜戦争』の真相」でした。

当時、小泉政権を危惧した元兵士の方たちから多くの証言が寄せられました。住民の食料を奪い、家屋を焼き、非戦闘員の老若男女をも殺した蛮行を、声を絞り出すように語った姿はいまも忘れられません。

戦争の加害者と被害者がともに口にしたのは、戦前回帰の教育の危うさでした。体験者は侵略戦争を肯定する歴史教科書の検定合格や、教育基本法の改悪、「日の丸・君が代」の強制など、教育に再び入り込んできた思想統制に警鐘を鳴らしました。ある人はいいました。「戦争はウソからでも始まる。だまされん力をつけてほしい」と。

私は戦争体験者から教育の重要性を学びました。いま学校は自公政権の競争と管理の教育によって、子どもも教員も保護者も追いつめられています。いじめ自死や、「指導」の名の下で自死に追いつめられる「指導死」は深刻さを増しています。そうした子どもたちの死に向き合うことは正直とてもつらいです。しかし、学校や社会を変えたい一心でわが子の死を語ってくださる遺族に、私は逆に励まされてきました。

私が取材で出会った人たちは「赤旗」を信じて語ってくれました。私は戦争体験者や子を失った親が取材で流した涙を、これからも忘れずに頑張りたいです。

赤旗の強み生かして発信

社会部 原 千拓（2016 年入局）

赤旗記者になって 3 年目を迎え、現在は社会部に所属しています。これまで森友・加計問題などの政治不正や自然災害の現場、サブリース業者による被害、社会福祉や奨学金制度などさまざまな問題を取材しました。

以前は、山形県小国町にある私立高校で 10 年間教師をしていました。中学校でのいじめ、一人親世帯や貧困に悩む家庭など生徒が背負うバックグラウンドの重さが年々増え、人への不信がますます強まっていることを直に感じてきました。

記者の仕事を通して一番に思うことは、私たちの暮らしと政治は直結しており、政治がゆがめばその影響は私たちの生活に及び、子どもたちの内面にも及ぶということです。政治によって解決する社会問題が多くあることも取材の中で感じることです。そのためにも日本で起きている問題の現状や困っている人たちの声、解決策やその道を開く展望などをニュースとして多くの人に伝えることが大切だと思っています。

仕事では学者や専門家などさまざまな分野の人たちとの出会いが多くあり、その人ならではの視点で語られる生き方や取り組みを直接聞くことができ、記者活動における魅力の一つだと感じています。校閲部から取材部門に移り 2 年目。自分の取材力や言葉の表現力の足りなさに肩を落とすことも少なくありませんが、先輩やベテラン記者の方々の取り組む姿やアドバイスに支えられ励まされ、記者経験を積み重ねています。

「しんぶん赤旗」は歴史問題や政治、大企業に対して「タブー」なく真実を追求し発信することができるのが一番の強みです。これからの子どもたちが「希望」を持って生きることができる社会に少しでも近づけるように記者としてできることを精いっぱい取り組んでいきたいです。

■各部の紹介——国民の目線で取材、紙面づくり■

赤旗編集局には 22 の部があります。

- 政治部 政党・政局、安保・外交、内政の各担当のほか、国会に取材団が常駐。国会論戦、政府・各党の動向、安保から暮らしの問題まで、時の焦点、政治の深層を深く取材し、的確に伝えます。
- 社会部 「政治とカネ」、自然災害の問題から社会保障、教育、くらし、事件・事故、科学、宗教まで、森羅万象が取材対象です。国民の目線で報道し、読者とともに真実を探求し、解決の方法を考えます。
- 経済部 巨大多国籍企業が利益をむさぼる現代資本主義システム、構造問題に国民の立場から迫り、基本調査にもとづいた報道が好評。まん延する俗論、珍論、ウソ、ごまかしを追及し、読者とともに紙面をつくります。
- 国民運動部 平和、労働、農林漁民、女性、青年、市民…国民各層・各分野の動きや官邸前行動などのたたかいを伝える「しんぶん赤旗」ならではの部です。
- 外信部 躍動する世界の動きをリアルに報道。他紙は伝えない各国の草の根の運動、労働者のたたかいなどの記事が好評です。
- 論説委員会 1 面コラム「潮流」と「主張」を主に担当します。幅広いテーマを多様な切り口で伝えます。
- 特報チーム 時々の焦点課題について、より新鮮な材料と深みのある論理で、問題の本質に迫る、読み応えもコクもある企画を追求します。
- スポーツ部 フェアプレーを大事にし、選手の権利を守り発展させる視点は他紙にないもの。アマチュアスポーツや体罰問題も重視しています。
- 地方部 全国の総局や支局、都道府県から寄せられる地方政治、住民運動、話題などを、各地方のページのほか、全紙面にわたって掲載します。
- 党活動部 党の支部活動や党員の姿を生き生き伝え、日本共産党を丸ごと知ってもらうとともに、黨員、支持者を励ますページをつくっています。
- 学術文化部 著名な作家や評論家のインタビューやエッセー、コラム、論壇時評、読者文芸、映画紹介、読書欄など、学術・文化にかかわる多彩な企画を担当しています。
- くらし家庭部 医療や介護・福祉から教育・料理など、くらしにかかわるすべてがテーマ。ジェンダーや子育ての企画は必読。多彩な専門家が答える電話相談は「赤旗」ならではの。
- テレビ・ラジオ部 16 面の番組表は 17 地域分を作成。第 2 社会面にもテレビ・ラジオ欄をもうけ、注目の番組放送現場を取材するなど多角的な紙面を提供しています。
- 囲碁将棋行楽部 「しんぶん赤旗」主催の囲碁・将棋の新人王戦、詰将棋・詰碁、詰連珠を担当。ガイドブックとは一味違う旅案内、つりも好評です。
- 写真部 「100 行の記事にもまさる 1 枚の写真」を撮るために、カメラ、パソコンを肩に現場に出動します。



- 読者室 読者の皆さんの連帯、つながりの場になっている「読者の広場」。若いこだまや絵手紙、「わが家のペット」欄も好評です。
- 校閲部 各部の原稿の誤字、脱字や文章の不備をチェックし、資料にあたって事実を確認。正確な紙面をつくります。
- 整理部 「記事を生かすも殺すも整理の腕」と言われます。「1面をどうするか、トップ記事をどうつくるか」。記事の価値を判断し、見出し、レイアウトを考え、パソコンを駆使して紙面をつくります。
- 工程管理・開発部 各部、国会、地方総局・支局、海外支局をつなぎ、原稿の提稿から紙面づくり、印刷までのネットワークを管理しています。
- 総務部 記者が工作上必要な備品の調達・管理、社会保険、健診などの実務を担当・処理しています。
- 広告部 書籍から民宿、物産など、暮らしに役立つ広告を担当。大企業からの広告収入に依存する一般紙と違います。
- 日曜版編集部 日本最大部数の週刊紙「しんぶん赤旗」日曜版の編集を担当。掘り下げた取材で「政治と社会の真実がわかる」深みのある記事を届けます。少年少女、若者、くらし、文化、芸能欄も。そのスクープ力と、一流の芸能人・文化人が登場することに他のメディアも注目します。

■「しんぶん赤旗」だけの情報■

- ★赤旗電話相談—法律、年金・社会保険、医療・福祉、教育、非行、育児などそれぞれの専門家による 無料電話相談です。信頼と信用を長年にわたって得ています。
- ★高層天気図—登山愛好家に欠かせない確かな気象情報として頼りにされています。
- ★囲碁・将棋の新人王戦—プロ棋士の登竜門として棋界に不動の地歩を確立。囲碁、将棋ファンには見逃せないコーナーです。

■「しんぶん赤旗」の歩み■

- 1928. 2. 1 「赤旗（せっき）」創刊
- 59. 3. 1 「アカハタ」日曜版発行
- 66. 「声の赤旗日曜版」を盲人友情の会が発行
- 75. 1 点字「赤旗」（月刊）創刊
- 92. 2 全面C T S（電算写植システム＝コンピューター編集・出力）導入
- 97. 4 日曜版のタブロイド化
- 2000. 5 日刊、日曜版ともに紙面カラー化
- 06. 7. 23 「赤旗」2万号
- 18. 2. 1 「赤旗」創刊90周年
- 18. 7. 2 日刊紙の電子版発行
- 19. 3. 1 日曜版創刊60周年



■赤旗編集局■

- 住所 〒151－8586
東京都渋谷区千駄ヶ谷4－26－7
- 電話 代表 03（3403）6111
- 日本共産党ホームページ
<http://www.jcp.or.jp/>
- 編集局メールアドレス
hensyukoe@jcp.or.jp